

なぜ英語などではひとりごとが起こりにくいのか

- Goffman, Erving (1978) “Response cries,” *Language* 54, 787-815.
- 英語ではひとりごとは精神的におかしいというスティグマがある。
- 英語では内容がある発言はすなわちヒトにむかって言ったということになる。

なぜ日本語などではひとりごとが起こりやすいのか

- 日本語でも聞き手目当てのモダリティを含む文をひとりごとでいうとおかしい。スティグマは普遍的。 #おいしいですわね。(誰もいないのに言ったとき)
- 聞き手を意識した表現が独立しているので、それをはずしさえすれば、スティグマを避けることが出来る。→ひとりごとが言える。
- ああ、おいしいー！

森山卓郎

- 森山卓郎(1997)「「独り言」をめぐって」 川端善明・仁田義雄編『日本語文法 体系と方法』ひつじ書房
- 「思考展開」を表さない。
- 発話の瞬間において「内容的に話し手にとって自明のことであり、思考・認識において何の変化も伴わないもの」

Alfonso

- This fact appears most clearly in situations which involve some sudden cognizance of a fact and the spontaneous reaction to it. In such situations there is always some person, thing, or fact -- let us call it an **OUTSTANDING FEATURE** -- which bursts in upon the subject's consciousness and draws him some exclamation.